令和５年度
秋季企画展

9月12日(火)～11月26日(日)

入館無料

大和川違積り図（新川計画川筋比較図・中家文書）

大和川のつけかえ

つけかえしない と決めてから

文化財講演会　安村俊史（当館館長）

「天和３年の付け替え検分とその影響」

10月28日（土）13：30～15：00（13：00から受付）

会　場／当館３階研修室　定 員／90名

参加費／200円　申込不要　先着順

史跡 高井田横穴特別公開

10月21日（土）10：00～15：00

学芸員によるガイドツアー　10時・11時・13時・14時

会　場／史跡高井田横穴公園　定員／各回20名

参加費／無料　申込不要　先着順

館長と学ぶ河内の古道講座

9月30日（土）「近世から近代の龍田道」

11月25日（土）「龍田道の変遷」（最終回）

いずれも13：30～15：00（13：00から受付）

会場／当館３階研修室　定員／各回90名

参加費／200円　申込不要　先着順

柏原市立歴史資料館

Kashiwara City Museum of History

くわしくはこちら
資料館ＨＰ

月曜休館（祝日は開館）9:30～17:00（入館は16:30まで）

JR大和路線 高井田駅から徒歩約５分／近鉄大阪線 河内国分駅から徒歩約15分

大阪府柏原市高井田1598-1　TEL 072-976-3430　rekishi@city.kashiwara.lg.jp

大阪平野になんども洪水をおこしていた大和川は、宝永元年（1704）につけかえられることになりました。北へと流れていた川を、西へと流れるようにしたのです。つけかえ前の大和川は、久宝寺川、玉櫛川、平野川などに分かれて流れ、大坂城の北で、もとの淀川（今の大川）に流れこんでいました。しかし、なだらかな平野を流れていたため水が流れにくく、大雨が降るとすぐに洪水をおこしていました。

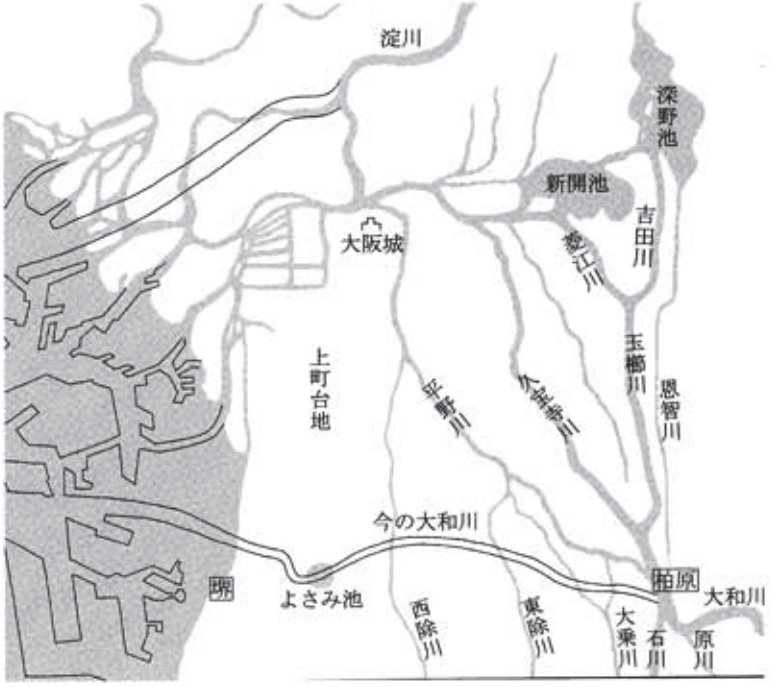
やがて洪水に苦しむ人たちから、大和川をつけかえてほしいという願いが出されるようになりました。そこで幕府はつけかえが必要かどうか、なんども調査をしました。調査は万治３年（1660）、寛文５年（1665）、寛文 11 年（1671）、延宝４年（1676）、天和３年（1683）と５～６年に１回のペースでくり返されましたが、いつもつけかえは必要ないという結論になりました。つけかえにたくさんのお金がいること、工事をするのがむずかしいことだけでなく、つけかえに反対する人たちがたくさんいたことも理由のひとつでした。新しい川ができるとこまる人たちが、つけかえに反対したのです。そのため幕府は、天和３年（1683）に「**つけかえはしない**」とはっきり決めました。

それでも洪水がなくならなかったので、貞享４年（1687）にもつけかえをお願いする文章が幕府に出されましたが、「**つけかえはしない**と決めたのだから、こんな文章を出してくるな！」ときびしい答えがかえってきたようです。それからつけかえをお願いすることはなくなり、大和川の流れが少しでもよくなるような工事をしてほしいというお願いに変わりました。そして、そのお願いに参加する人たちもどんどん少なくなっていきました。

ところが、みんながつけかえをすっかりあきらめたころに、幕府は急につけかえることを決めました。つけかえると洪水がなくなるだけでなく、幕府にたくさんお金が入ってくる方法があるとわかったからです。

つけかえ工事は、宝永元年（1704）の２月から 10 月までおこなわれました。わずか８か月というスピード工事でした。

つけかえ後、もとの大和川は新田として開かれ、そこには綿をたくさん植えていました。綿からつくられた布は、河内木綿として各地に売られました。洪水がなくなって喜んだことでしょう。しかし、新しい大和川の近くの人たちには、苦しい生活が待っていました。



つけかえ前の大和川

つけかえしないと決めてから

天和３年（1683）の調査は、大和川だけでなく京都、大阪周辺の広い範囲で行われました。賀茂川、白川、桂川、保津川、淀川、久宝寺川、大和川、玉櫛川、深野池、新開池、徳庵井路、鯰江井路、平野川、西除川、狭山池、東除川、中津川、神崎川、石川、龍田川、大和川上流、佐保川、木津川、宇治川を調査しています。

このあいだに、大和川のつけかえが必要かどうかも調査されています。はじめは現在の大和川とほとんど同じルートで調査され、そのあと、かなり北の阿部野村へ流れるルートで調査されています。どちらもつけかえに反対する人たちから、「つけかえないでください。」というお願いが出されています。

この調査には、河村瑞賢という人がいっしょにまわっていました。瑞賢は幕府の役人ではなく、川の工事などについてよく知っている人でした。その瑞賢は、大和川と合流するところよりも下流の淀川（今の大川）の流れをよくすれば、大和川の洪水はなくなると考えました。この考えによって、幕府はもうつけかえはしないと決め、瑞賢が安治川をつくるなど淀川の工事をすることになりました。その工事が完全に終わらない貞享４年（1687）に、またつけかえのお願いが出されたので、幕府が怒ったのもしかたのないことでした。

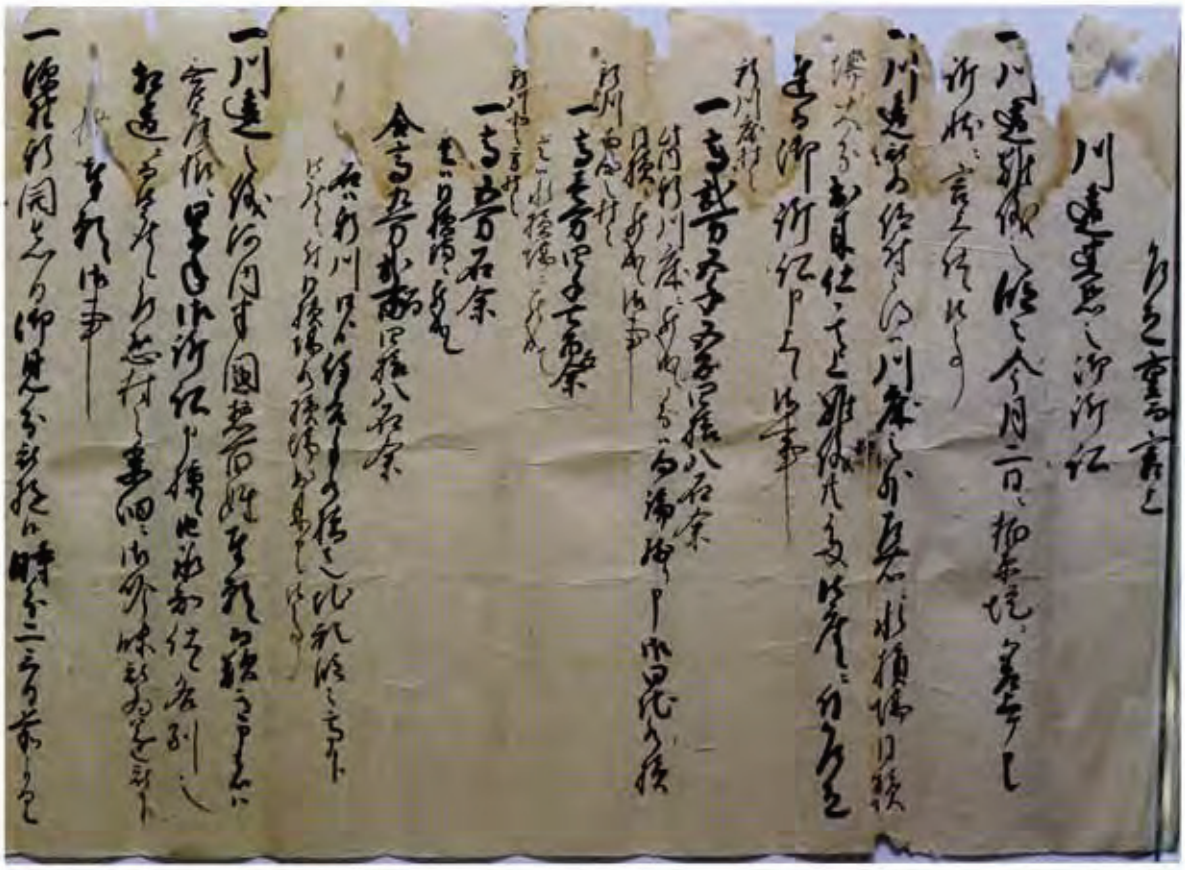
急に決まったつけかえ

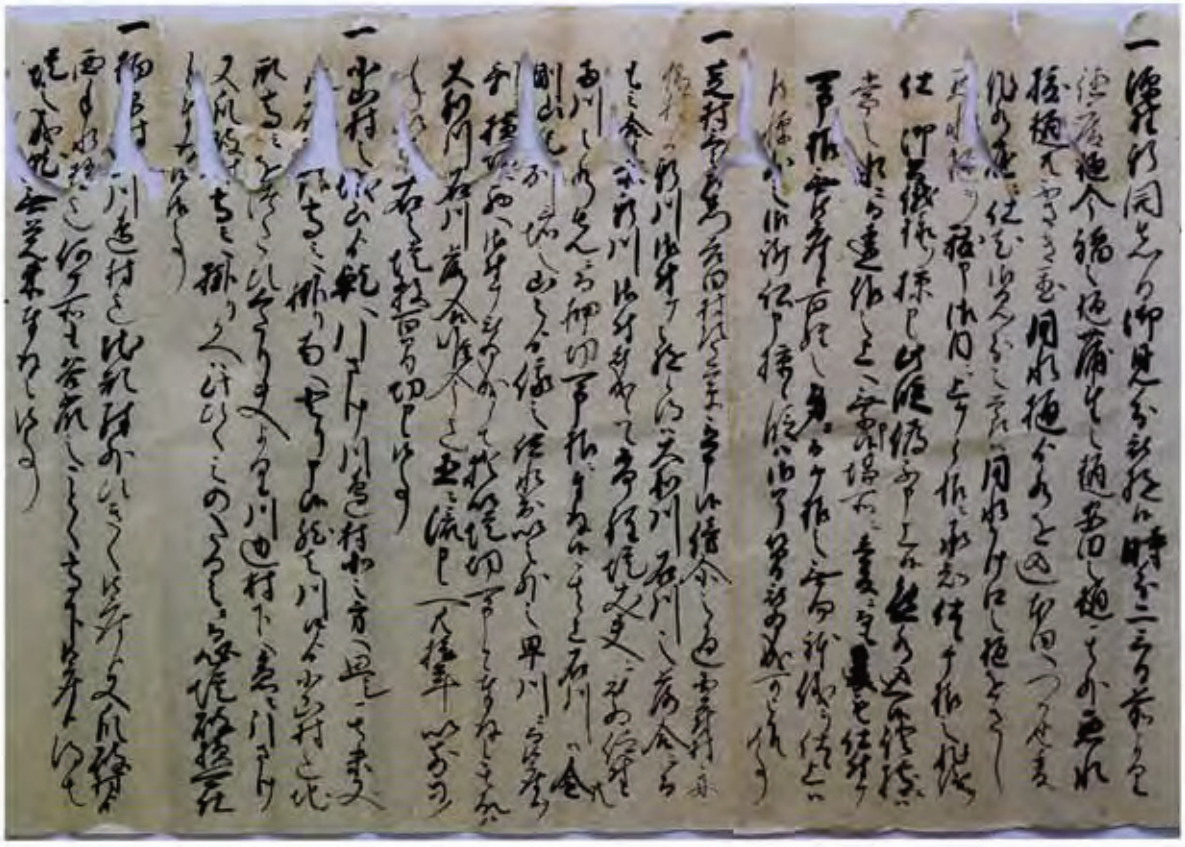
つけかえを求める運動は終わり、川の工事を求める運動に参加する村の数も減っていました。それなのに、幕府は急につけかえることに決めたのです。

つけかえ工事は、川の底をできるだけ掘らず、掘った土と堤防に必要な土の量をできるだけ同じにするなど、むだのない方法で行うことになりました。この工事で幕府が必要としたお金は約 37,500 両で、それ以外の 34,000 両ほどは工事を手伝わされた大名がはらいました。そして、もとの大和川を新田にするために幕府に入ってきたお金がおよそ 37,000 両でした。つまり、幕府が工事で使ったお金のほとんどが新田開発でもどってきたのです。

つけかえ工事のあと新しくできた新田は、新大和川をつくるためにつぶれた田畑の４倍の面積になりました。新しい新田からは、幕府に年貢がおさめられます。幕府は、つけかえ工事をすることによって、幕府にお金が入ってくる方法を考え出したのです。この方法を考え出したのは、万年長十郎だったと考えられます。つけかえに強く反対していた河村瑞賢が死んだので、つけかえを進めやすくなっていたことでしょう。いくら工事をしても洪水がなくならなかったことや、小さくなったとはいえ運動が続けられていたことも大きかったでしょう。

こうして、幕府はたくさんのお金が必要となるはずの大和川つけかえ工事を、お金がはいってくる工事として行うことができました。これが大和川つけかえ工事がおこなわれることになったほんとうの理由なのです。





天和（てんな）３年（1683）４月18日に出されたつけかえ反対の願いの一部

つけかえに反対した村の位置から、現在の大和川とほとんど同じルートでつけかえが考えられていたことがわかります。（舟橋村・松永白洲記念館所蔵）